

令和7年度 第1回 熊本市北区地域包括ケアシステム推進会議要旨

日 時 令和7年9月2日（火）14:00～15:30

場 所 植木文化センター多目的ホール

出席者 米満委員、平田委員、大塚委員、原口委員、井手委員、大久保委員、藤本委員、立花委員、
宮田委員、濱松委員、戸渡委員、清田委員、松川委員、阪本委員、渡邊委員、内田委員、
津地委員、秋吉委員、中村委員

欠 席 境委員

1 北区長挨拶

2 委員紹介・事務局紹介

3 会長 副会長選出

平田委員より戸渡委員が推薦され、委員の賛同あり、戸渡会長が選出される。戸渡委員の指名により、米満副会長が選出される。

4 議事

（1）事務局説明

第3期北区地域包括ケアシステム推進方針について

（2）情報提供

地域福祉創造塾第一期生養成からみえた担い手発掘の可能性について

ささえりあ武蔵塚

（3）意見交換

○川上校区民生委員児童委員協議会 会長 津地委員

昨年私がご意見申し上げた部分を反映させていただいて、とてもありがたいと思っている。今日のご説明を受けた上で感じることは、北区の推進方針を第3層の中でどうリアライズしていくかというのが一番の課題だろうと考える。地域包括ケアシステムを進めていかないといけないことに対する認識は、地域の中で根づいて、意識をみんなが持っているかというと、持っていない状態だと思う。これを地域の中でいかに情報を共有したり、状況も把握したりして、校区ごとに話し合いの場を設けるなどしていかなければ、いつまでも絵に描いたもちで終わってしまうのではないかなと思う。

これは私の校区だけに限ったことではないだろうと思っているので、何かの働きかけなりをしていかないと、地域でこういった意識を持って動いていくことはなかなか難しいと思う。

これから先、少子高齢化がどんどん進んでいく。地域の担い手も、例えば自治会長さんの顔ぶれもほとんどが高齢者。地域の活動の担い手に若い方は少ない。そういった部分も含めた上で、地域がそういった課題を自分たちの課題として感じて、それに対する対策を、地域、行政、関係団体で協議をして、課題を抽出したり情報状況を共有した上で、どういったアクションを起こしていけばいいのか話し合って、それに全員で取り組んでいく、役割分担したり共同したりして取り組んでいく、そういったシステムを作ることが大事だと思う。それを地域でやると言われても、なかなかおそらく地域は動かないと思う。ただそのきっかけづくりは、行政からしていただけると助かると思う。

この前も、区長の方の働きかけて開催された集談会のような形で、地域だけでなく企業なども一緒になって、こういった課題にも取り組んでいける。そういったシステムづくりがやはり喫緊の課題ではないのだと思うし、これからやっていかなければならないのではないかなと思う。

→佐藤福祉課長

貴重なご意見ありがとうございました。

推進方針を地域の中で根付かせて、皆さんに把握していただけていただくようなアクションを起こすことは非常に重要なことと思う。計画を立てて考えていきながら、取り組んでいきたいと思う。またご協力をお願いいたします。

○戸渡会長

私自身も北区に住んでおり、生まれも育ちも北区なので、北区の地域の変化を感じている。推進方針に理想とするものが書かれていたとしても、それが実際に動いていくためには、仕組みや流れを通すことが必要。そのことで住民の皆さんも非常に動きやすくなる。北区の住民の皆さんは、とても熱い思いを持った方がたくさんいらっしゃるので、推進会議だけではなくて、まちづくりセンターなど様々な地域づくりに関する部署が連携していくということが非常に重要になってくる。

○麻生田校区自治協議会 会長 秋吉委員

清水校区でも集談会が開催された。地域と行政と企業が一緒に考えていく場になった。

麻生田校区のなかで、ベトナム・カンボジアなどの外国人の方が80名ほどいらっしゃる。今後一緒にイベント、まちづくりをしていきたい。夏祭りやラジオ体操などの写真集をお渡しし、地域活動の紹介をおこなった。このような広報活動が今後生きてくるのではないかなと思っており、継続していきたい。

→吉住北区長

まちづくりセンターも保健子ども課も地域にはいって行って、働きかけをしているところ。大枠はあるので、市役所の第一線の現場の区役所が着色し、絵を仕上げていきたい。まずは私たち第一線のまちづくりセンター、保健子ども課、福祉課などが中心となって、呼びかけ、最終的には自主自立で、地域で運営していくような組織型も作っていきたいと考えている。PDCAサイクルで2年サイクルで考えていきたいと思っているので、皆さんにご協力をお願いします。

○戸渡会長

方針2の「場づくり」のことについて、元気くらぶは立ち上げるのがなかなか難しいとの声も聞く。プレ元気くらぶなど、立ち上げをサポートする仕組みはあるか。

○社会福祉法人 熊本市社会福祉協議会 立花委員

校区社会福祉協議会を中心として、ふれあいいきいきサロンの事業を開催している。

コロナで休止中もあるが、熊本市全域で600か所くらいあり、いきいきサロンから元気くらぶにつながることもある。

○川上校区民生委員児童委員協議会 会長 津地委員

地域におけるつどいの場は各地域で展開しており、自治会単位でたちあげている。民生委員児童委員が中心となって立ち上げることも多い。運営のすべてを任せられるとつらい部分がでてくる。地域の中で担っていく体制作りが大切。

元気くらぶは体の健康づくりが主になり、体操が中心になるとハードルが高く感じる方もいる。集まってコミュニケーションをとることが大切。体操やゲーム、茶話会など、楽しみがあると、長続きするのではないかと思う。ただ地域活動を支える人が減っていることも事実と思う。

○武蔵校区民生委員児童員協議会 会長 中村委員

毎週火曜日はふれあいサロンを開催している。ささえりあや介護事業所も協力してもらい、講話などをしていただいている、ありがたいと思っている。参加者が楽しかったと言ってくれるのが支え。今後も続けていきたい。体操をしているが、時間がなく茶話会はできていない。

○ささえりあ武蔵塚 一安氏

ご要望があれば、体験会を実施することは可能。機材やおもりなどをお持ちして、体操の体験をしていただくことは、各ささえりあで取り組んでいる。

また、定期的な活動をしている団体にはリハ職の派遣で、年に2回まで体力測定や運動の指導ができるので、そういった事業を活用しながらささえりあで協力している。

先ほどご意見があったように、運営する側の地域の方の担い手がないということは課題であり、ささえりあでも地域の人材育成の協力できればと思っている。

○公益社団法人 熊本県看護協会 原口委員

10年ほど前に清水校区での通いの場に関わっていた。清水校区の社協で提案をして、リーダーを育成して、地域ごとに1か所以上、既存の活動に合わせて実施できればとアプローチをした。熊本地震のときには、体育館での運動指導などの活動を続けた。地域のリハビリ職の方の支援があると励みになる。最初に誰が取り組むかを考えたときに負担になりやすいので、既存の活動に運動を取り入れてもらった。小さな活動でもはじめてみるのが大事と思った。

○戸渡会長

医療機関、訪問看護ステーションなどの社会資源の方々と連携するなど、そういった方々のお力をお借りすることも大事なことだと改めて思った。

○米満副会長

機能病院にも体力づくりセンターがあるが、毎日来る方もいる。外来でもよくおしゃべりをして、元気になっていただく方もいれば、病院嫌いの方もいる。病院に来てくれない方に対して、その方の好きなことだけを話してみると来院されるようになった。ひとりひとり好きなことが違う。体操だけだと来てくれないが、コミュニケーションが好きな方もいる。幸せに生活するために、好きなことをやる受け皿、場づくりが必要。場づくりを病院でも取り組みたいが、どうしても画一的になってしまう。新しいアイデアがなかなかないが、好きなことを入り口に集まるほうが長続きすると思う。公民館講座で時事問題研究会があり、講師として医療の問題点などを講話に行く。90歳代の方も2時間ノートを取りながら勉強される。好きなことから派生していくとよいと思うので、アイデアをいただきたい。

デイに参加される方は8割女性。男性の方もデイに行きやすくなるとよい。北区の中で新しい取り組みがあれば教えてほしい。

○川上校区民生委員児童委員協議会 会長 津地委員

コミュニケーション、体操、趣味など今後は多様な場があるとよい。地域の方が年代に関係なく参加できるようなコミュニティーの場を展開する必要があるかと感じる。難しい切り口のため、成功例があれば聞きたい。

○熊本市民生委員児童委員協議会 宮田委員

弓削校区では元氣くらぶを開催し、午後に童謡、ハンドベルを実施している。元氣くらぶの参加者が午後も参加される。カラオケ会も始まった。今後は健康麻雀の希望の声があり、開催に向けて準備している。

○麻生田校区自治協議会 会長 秋吉委員

空き家の問題は、子どものたまり場、不審火、雑草などの課題があり、全国的にも悩ましい課題。今後空き家が増えると思われる。麻生田校区では、モデル校区として空き家対策に取り組んでいる。

治安対策のため防犯カメラの設置を進めている。人目がなく犯罪が起こる不安がある場所など、地域住民によりそった治安が大切と思う。

○米満副会長

ウェルビーイングをキーワードにして体力づくりセンターでも取り組んでいる。

地域の皆さんとの話し合いでも、自分は何を持っているかで見直してみると、いい企業やいい人たちがたくさんいるとの気づきがあると思う。そういう意味では、自分が今何をもって何が幸せなのか、自分が何を好きなのか、ということを高齢者の方にも生かしていただきたい。

ウェルビーイングの視点をもったまちづくりが必要になってくると思う。

○戸渡会長

健康の考え方が体の健康だけでなく心の健康、社会的な健康が非常に重要。ウェルビーイングフリーダム (well-being freedom) といって、心身ともに健康的に自分らしくある自由とエージェンシーフリーダム (agency freedom) といって世のため人のために何かやる自由、このふたつを発揮できることがその人なりの健康を作っていく、という文献を目にし、地域包括ケアシステム推進会議には生きてくる考え方と思う。報告のあった地域福祉創造塾も、エージェンシーフリーダム、世のため人のために自分にやれる自由を発揮するための仕組みづくりに、貢献されていると感じた。

10 年 20 年と年を重ねる間にできなくなることが増えていくが、その中でも私にはこういうことがやれる、と思い続けながら、最後まで自分らしく生き抜く、ということが重要。どのように自分らしく生き抜くか議論できる会議になったと思う。

○公益社団法人 認知症の人と家族の会 熊本県支部 濱松委員

熊本県が主催、熊本市と認知症の家族の会が共催で、9 月 13 日にオレンジフェスタが開催される。ぜひご参加を。認知症基本法ができ、本人を中心に地域みんなで支えるという考え方に変わってきている。認知症の治療も始まっている。治療を受けるためには条件があるが、実際に受けている方は改善例もあると聞く。今後研究が進んでいくと思う。

【事務局まとめ】

市地域包括ケアシステム会議（第Ⅰ層）への検討課題について

- ニーズの多様化による受け皿の体制づくりと担い手育成
- 地域包括ケアシステム推進に向け地域の推進体制づくり
- 移動手段や交通量増加にかかる課題
- 医療介護連携の不足